

大きな喜びをもって喜ぶ クリスマスメッセージ（新約聖書：マタイの福音書2章1節から12節）

<https://www.youtube.com/watch?v=bTnZBsGIC5M>

2019年12月23日公開メッセージ 今回はマタイの福音書の2章を見ていくことを、皆さんにお招きしたいと思います。1節から12節を読みたいと思います。私について読んでください。可能ならば、お立ち下さるようお願いいたします。難しければ、座ったままで大丈夫です。私が読むのについて来てください。

聖霊によってマタイは、イエスが生まれた時に起こったことを記録しています。皆さんはすぐに、これはイエスがすでに生まれた後のことだと気づくでしょう。1節から。

## マタイ2章

1イエスがヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東の方から博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。

2『ユダヤ人の王としてお生まれになった方は、どこにおられますか。私たちはその方の星が昇るのを見たので、礼拝するために来ました。』

3これを聞いてヘロデ王は動揺した。エルサレム中の人々も王と同じであった。王は民の祭司長たち、律法学者たちをみな集め、

4キリストはどこで生まれるのかと問いだした。

5彼らは王に言った。『ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれています。』

預言者ミカのことです。興味深いです。

6『ユダの地、ベツレヘムよ、あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。あなたから治める者が出て、わたしの民イスラエルを牧するからである。』

7そこでヘロデは博士たちを密かに呼んで、彼らから、星が現れた時期について詳しく聞いた。

8そして、『行って幼子について詳しく調べ、見つけたら知らせてもらいたい。私も行って拝むから』と言って、彼らをベツレヘムに送り出した。

嘘つき！あなたは彼を礼拝したくない、あなたは彼を殺したいのに！ すみません、ちょっとこれを挿入する必要があります。

9博士たちは、王の言ったことを聞いて 出て行った。すると見よ。かつて昇るのを見たあの星が、彼らの先に立って進み、ついに幼子のいるところまで来て、その上にとどまった。

ところで、詳細に注意してください。私はそれについてお話ししたいと思います。

10その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。

私たちが話しているのは、博士たちのことです。

11それから家に入り、母マリアとともにいる幼子を見、ひれ伏して礼拝した。そして宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

12彼らは夢で、ヘロデのところへ戻らないようにと警告されたので、別の道から自分の国に帰って行った。

一緒に祈りましょう。感謝します、主よ。主よ、今日、私たちは世界の救世主としてのあなたの誕生を祝います。そして今日、私たちはあなたがここにいることを強く感じています。この、あなたの教会の中に、私たちと共に居られます。だから、主よ、私たちはあなたを礼拝したいです。私たちはあなたをあがめたい。私たちはあなたを讃えたい。主よ、今日私達が一緒にいる時間を、祝福してください。

そして、より重要なことに、私たちの時間によって、あなたが祝福されてますように。わたしたちが世の救い主としてあなたの誕生を祝う時に。私たちはこれを求めます。イエスの御名によって、アーメン。

どうぞお座りください。ありがとうございます。今年のクリスマスの説教で今日私が願っていることは、この質問に答えることです。

『どのようにして、なぜ、この上なく 非常に大きな喜びで喜ぶことが可能なのか？』そこで、最初は「非常に

大きな喜びで喜ぶ」と言う、重複しているように聞こえるかもしれません。

rejoice (喜ぶ) と joy (喜び) には違いがあります。Joy/喜びとは、私達が抱く感情で、Rejoicing /喜ぶとは、外に向かって祝うことです。Joy/喜びのゆえに、Rejoice/喜ぶことにおいて宣言するのです。

この話で私にとっても印象的なのは、これらの賢者/博士が... とところで、ごめんなさい... よろしければ、一番初めに、これを片付けてしまいたいんです。私は皆さんの降誕シーンのすべてを台無しにするつもりはありませんが、しかし、お話しします。まず、3人の博士がいたとは本当は書かれていません。

私たちはそう想定しているんです。3つの贈り物が具体的に言及されているからです。しかし、三人以上いたと信じる人たちがいます。これはこれらの宝物を、(ついでに言うと、大量に) 持ち込んだ随行団だった、と。これについては、後で説明します。そして、彼らはよりによって東から来ました。よりによって、現代のイランから。現在、皆さんの聖書のいくつかは、これらの賢者を『東方の三博士/magi』として表しています。興味深いのが、私たちの英単語「magic/マジック」はここから来ていることです。

私は誰かのギアを詰まらせたり、より現代的な比喩を使えば、誰かのハードドライブを壊すつもりはありませんが、しかし、彼らは占星術師、天文学者でした。彼らは星を研究した人たちでした。そして、その星によってエルサレムに導かれました。その後、幼子の王を礼拝するために、ベツレヘムへと導かれるのです。また、私たちがマタイのこの記述を読んで、皆さんがこれに気づいたかどうかは分かりませんが、しかし、彼らが到着したとき、そこは飼い葉おけではなく、「家」であったことに注意してください。それは、生まれたばかりの赤ん坊ではなかった。それは幼い子どもでした。言い換えれば、これはしばらく経ってからの可能性が非常に高いのです。どのくらいの期間かは書かれていません。実際に重要ではありません。しかし、これは、イエスが生まれた後、ヨセフとマリアが彼らの家に戻ったときのこと、そしてその時、彼らはその王である子どものもとに、この星によって導かれました。そして、彼らはこれらの贈り物を持ってきました。そして、彼らが幼子を見たとき、彼らは非常に大きな喜びをもって喜んだのです。皆さんも私に同意してくれると思いますが、私たちは救い主の誕生のお祝いを、とても忙しく、とてもストレスの多いものにしてしまいました。なぜ、この救い主の誕生のお祝いは... ..私たちは「Silent Night/きよしこの夜」を歌います。私は皆さんの夜について知りませんが、私の夜は静けさ/silent とは程遠いものです。そうですね？ 喜びについては、言わせないでください。それが今日お話ししたいことですが。だって、「♪Joy to the world/ 民みな喜べ♪」一本当に？

「世界に喜び？」 「地上の平和？」 冗談でしょう？！何が起きているのか、分かっているの？ 喜び、平和など、とんでもない！それがポイントです。それがポイントです。悲しいことに、非常に大きな喜びで喜ぶ時間であるべきなのに、多くの人にとって、非常に大きなストレスの時となっています。統計を聞いたことがあるでしょう？ 非常に気のめいるような数値です。まあ、それらは実際、祝日中のうつ病に関する統計です。それはあなたをさらに落ち込ませます。そして、あなたはこれらの祝日期間の色々な統計を耳にします。ストレス、うつ病、忙しさ... すべては、世の救い主の誕生のお祝いとセットになってきます。良い知らせは、こうなる必要はないということです。それは、救い主の誕生が私たちにとって意味することのゆえにです。ここ地上でも、そしておそらくもっと重要なことに、私たちが天国に連れて行かれる時も。これが、私たちがこれらの賢者の話を再び見直すよう聖霊が導かれていると私が感じる理由です。具体的には、彼らが宝箱を開いてイエスに贈ったこれらの贈り物について。私は、これらの贈り物が象徴するものの重要性を誇張することが可能かどうか分かりません。その時のイエスにとっての、象徴的重要性。そして、今イエスの信者としての私たちにとっての重要性。それが私がお話ししたいことです。もし皆さんが親切に聞いてくださるなら、私はこれらの贈り物を見ていきたいと思います。

最初に出てくる黄金から始めます。今、皆さんが頭の中で、これをどのように想像されるか分かりませんが、彼らが贈った黄金は何でしたか？ またしても、マタイの記述の詳細は、あなたに次のような印象を与えます。彼らは金でいっぱいこれらの宝箱を持っていたと。そして、彼らは宝箱を開き、この黄金のすべてを幼子に贈りました。金は確かに今日貴重なものです。しかし、その時代では?! なんとということでしょう! 非常に貴重なのです! 非常に稀で、それがさらに価値を持たせた。そして、その時代、王室訪問中に王に金が贈られたのが慣例でした。さて、聞いてください。聖書を通して、金は神性の象徴です。そのため、それは、王の王、主の主

としてのイエスについて語っています。完全に神であり、完全に人であられる。そして、どうしてそうなのか、説明します。これはまさに、旧約聖書がこの来る王について、予告していたことです。それは実に、幕屋から始まりました。そして、礼拝の場所としての幕屋の建物の詳細、幕屋のあらゆる側面は、人となられるイエス・キリストを指し示しています。その後、神殿が幕屋にとって代わります。あの神殿の中の黄金は？ それは、ただただ... 壮観だったのです！そして、その金は来る王であるイエスについて語っており、指し示していました。

「インマヌエル/神は私たちと共におられる」

ついでに言うと、それは非常に興味深いです。私たちは旧約聖書を通しての学びで、これを見ました。そこには、7つの品がありました。服飾品と言ってもいいでしょう。幕屋とその後の神殿の中にです。7とは、もちろん完全数です。そして、3つの小部屋というか、部屋というか、場所がありました。外庭、聖所、それから至聖所。契約の箱と神の臨在の栄光が住んでいた場所です。彼らは贖いの日に大祭司を至聖所に送りました。これは一年に一度だけでした。彼は中に入り、そして、最も聖なる場所である至聖所で贖罪を行います。さて、幕屋と、その後の神殿を見て、神殿の中のその3つの場所にある7つの物が十字架の形に置かれていたのです。そして、その3つの場所は、神の三格の性質の予型です。私たちは三位一体と呼んでいます。そこで、ヨハネの福音を見ると、ヨハネの福音書の始まりは、非常に興味深いです。

「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」（ヨハネ1：1）

その後、14節を見ると、

「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。」と書かれています。私たちの中心に。これは神が人になるということです。これは、「神は私たちとともにおられる/インマヌエル」それが金が指し示し、語っていることです。ここには他に指摘する必要があるものがあります。それは非常に重要です。

これらの贈り物のすべてには、大変な価値がありました。特に金は、皆さんは、ヨセフとマリアが非常に貧しかったことを理解する必要があります。それが分かるのは、彼らが神殿に行き、礼拝する際、マリアは神殿で、最も価値の低い捧げものを捧げる事しかできなかったからです。彼らはとても貧しかった。面白くないですか。これらの贈り物、これらの金、これからお話しする、没薬や乳香は貴重だったのですが、それは神が彼らを養われる方法だったのです。特に、彼らがヘロデからエジプトに逃げなければならなくなる時に。その時代の旅は、非常に困難であったことを理解する必要があります。

それは非常にお金がかかり、非常に難しかったのです。そして、彼らは養われました。これは彼らがヘロデのもとから逃げてエジプトへ旅するための財政的な備えでした。主の御使いは夢の中でヨセフに現れて言いました。「くつろぎすぎないで。」「もう行く時間だ。ヘロデはあなたを殺したがっている。」

そして、何が起こったか知っていますね？ヘロデは... 悪魔に憑りつかれていたのだと私は信じていますが... 2歳未満の男の子全員を殺害しました。このユダヤ人の王、王の王を殺すために。そこで、なぜ私はこれを指摘するのか？なぜなら、クリスマスが経済的に困難な時期になりうるからです。私はある人がこう言ったのを聞きました。私たちは遣う余裕のないなけなしのお金で好きでない人のために贈り物を買う、そして、1月にその支払いをする。支払うとすれば、です。それで経済的に、毎年この時期にはこの余分なストレスがありがちです。そして私は、神様がこのように備えてくださることが、興味深いと思ったのです。使徒パウロがピリピ4章19節で言ったことが大好きです。

「また、私の神は、キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たしてくださいませ。」（ピリピ4：19）

さて、これは第二の贈り物につながります。それは、乳香です。乳香は、特にその生産方法が興味深いです。木を切って傷つけ、その木の樹皮から樹脂を流しだし、乳香を得ました。そしてそれを取って、乾燥させます。そしてそれを燃やします。すると、それは香料として、非常に良い香りがしたのです。

さて、この乳香は、私たちの大祭司としてのイエスのことを語っています。それは、旧約聖書で預言され、予告されていた型です。もしかしたら、このように言う必要があるでしょうか。旧約聖書のすべては、人としてのイエス・キリストを指し示し、成就するのです。旧約聖書のすべてです。ある人がこう言いました。「旧約

聖書は、新約聖書が明らかにすることを覆い隠している。」それはすべて、イエスのことを物語っています。旧約聖書の中に興味をそそられる記述があります。それは多くの人がたぶん読まない書の中にあります。ただ、その書の名前のせいで。それは民数記(数字の書)です。なんて退屈な響きでしょう！誰が数字に関する書を読みたいでしょうか？だって、それがその書ですから。数字についてなんです。イスラエル人の数について。それが本当に興味深いのは、6章くらいまでに達すると、宿営にいるイスラエル人のすべての数が書かれているのです。幕屋を中心にして、12の部族が4つの宿営に分かれていました。つまり、ある一定の数のイスラエル人が東に宿営しており、一定の数のイスラエル人が西に宿営して、一定の数のイスラエル人が北に宿営しました。そして、一定の数のイスラエル人が南に宿営しました。これは重要です。なぜか？なぜそれを知る必要があるのか？なぜなら、民数記22章にきたとき、すべての聖書の中で、私のお気に入りの記述の一つです。すべての聖書の中の、他のすべての記述と同じように。そこで、バラムという名のこの男が登場します。バラム。そして、彼は口バを持っています。彼はバラクという名の別の男に雇われます。そして、バラムは預言者です。彼は呪いと祝福を宣言することが出来ました。だから、バラクはイスラエル人を呪うために彼を雇います。

イスラエル人に呪いを告げるために。なぜなら、彼らは数が増えていたからです。これが数字の書/民数記の扱う内容です。そこで彼は...もちろんバラムは受け入れ、彼は出かけて、進んで行っています。イスラエル人は、民数記に書かれている通りに、そこに宿営していました。そこで、バラムはイスラエル人にこの呪いを告げようとしていました。何が起こるか知っていますね？その道の途中で、口バが...口バです。私はこの口バが大好きです。私たちは天国でこの口バを見るのかもしれませんが、もし天国にいるなら、彼に会って彼と話をしたいと思います。なぜなら、それはおしゃべりをするらしい口バだからです。そして、口バはバラムに「やめておけ！」と言うのです。彼はバラムを止めようとしています。

彼がバラムに話しているのは、ちょっとユーモラスです。そして、バラムは口バに話し返すのです。そして、バラムは進み続け、彼はこの場所に到着します。彼はそれらの数のイスラエル人の宿営を見渡し、そして、イスラエル人を呪おうとします。そして、呪いの代わりに、イスラエル人に最も美しい祝福がくるのです。彼はやろうとするが、できない。彼が呪おうとして口を開くたびに、祝福だけが出てくるのです。バラクは我慢できません。彼は激怒してくるのです。だから、彼はついに、高い山頂に行こうと言います。より良く見渡せる別の有利な地点へと。宿営全体が見えないから、うまくいかないのかもしれないと。巨大な宿営です。それが核心でした。イスラエル人は数が増えていた。その数のために、脅威となっていました。そこで、彼らはこの山頂に行きます。そして、そこで今や彼は、イスラエル人の宿営を見下ろすことができます。そして、彼は再び彼らに呪いを告げようとしています。そして再び呪いの代わりに、祝福が出て来るのです。それはただただ、栄光です。そこで疑問は、「なぜバラムは彼らを呪うことができなかったのか？」答えは、なぜなら、イスラエル人の宿営の数を見ると、12部族が4つの宿営に分かれていて、幕屋、レビ人、祭司の部族を中心にして、東、西、北、南に位置しています。何があるか分かりますか？十字架です！それは、十字架の形をしていました。したがって、ローマ8:1があります。キリスト・イエスにある者は、もはや呪いも、罪の責めも、罪悪感もない。民数記には、予型、図式があります。聖句の図式、私はそう呼ぶのが好きです。それは、世の救い主のもので、彼は処女から生まれ、預言を成就します。ところで もう一つ、ついでお話することがあります。私たちはある年、この話をしたことがあります。それは非常に興味をそそられる学びです。私は私のアーカイブを見てみました。実際、旧約聖書の中には、イエスの初臨を告げている預言が365件あるのです。365。私はその数字を覚えている理由は、それが私たちのカレンダーにある日数だからです。イエス・キリストの最初の来臨を予告している365の預言。ミカ書にあるこれは...

博士が預言者ミカを知っていたことは、興味深いことではありませんか？彼らは、救い主がベツレヘムで生まれるという預言を知っていました。そして、彼らは365の預言の1つを引用します。

イエスはそれらのすべてを成就させました。祭司が幕屋と神殿の中にいる時、彼らは捧げものを捧げていて、揺り動かす(波/ウェーブ)捧げ物と呼ばれる捧げ物がありました。スポーツイベントでスタジアムで礼拝するような「波/ウェーブ」ではありません。これは、祭司が持っていく揺り動かす捧げ物であり、イエスが来た時のよ

うに、祭司は上から下へと動かすのです。そして、左から右に祭司はそれをその方向に揺り動かします。なぜでしょうか？ 十字架の形です。私たちは、聖餐のお祝いの間に、このことについて話しました。出エジプト記で、イスラエル人が、10番目の災いである、初子を取り去る死の御使いを避けるために... 興味深いです。次のことをしなければ、初子（長男）は死んでしまいます。

子羊を取って、4日間、それを検査します。それは、イエスが裁判にかけられた日数と完全に一致します。傷や斑点がないことを確認するために。そして、検査に合格すれば、第9時に子羊を取って屠り、喉を切り裂き、体を裂きました。骨は折りません。ちなみに、これもまた別の預言です。そして、血が出てくると、彼らはヒソップの枝を取り、彼らは血にそれを浸します。そして、彼らは家の門柱にその血をつけるように言われました。今、あなたはおそらく4つの角を考えるとと思いますが、違います。門柱の上と、下、そこには鉢が置かれており、右と左に塗られました。十字架の形です。結論がありますから、辛抱してください。そこで、死の御使いが来たとき、死の御使いが来て、エジプトのすべての初子の男子は死亡しました。家の門柱に、十字架の形をした子羊の血を塗っていた家を除いて。その死の御使いはそこを「過ぎ越し」しました。過越。そこからその名称が来ているのです。旧約聖書のすべては、イエス・キリストという人物を指し示しています。そして、この乳香の場合もそうです。

出エジプト記30章では、純粋な乳香と香料を 調合した物のみが礼拝に使用される祭壇で許可されていたことに注目すると面白いです。 **(出エジプト30:34)**

そこで乳香が使われました。さて、ここから3番目の贈り物である「没薬」に繋がって来ます。乳香のように興味深い贈り物です。非常に香りがして、これもまた木から出るものです。しかし、違いがあります。その違いとは、木の樹液は乾燥されて香になるのではなく、油として使用されるということです。

具体的には油注ぎの油。そして、それはまた、非常に香りが良いのです。しかし、重要なのはこれです。

香りが良いのは、それが砕かれた後だけです。砕かれる前は、それは非常に苦いハーブです。そしてそれを砕くとき、それは このオイルである樹脂を解き放ち、非常に良い香りがするのです。しかし、そのためにはまず、砕かれなければなりません。没薬は、埋葬のために体を準備するために使用される香料の混合物の主な成分でした。これらの王が何をしていたか知っていますか？特にイエスにこれらの贈り物を与える上で、彼らはこの王が死ぬために生まれることを知っていました。それが没薬の目的だったのです。このことが、十字架上のキリストの死をはっきりと物語っているのです。ヨハネの福音第19章38節に興味深い記述があります。後に、アリマタヤのヨセフがイエスの体をピラトに求めたと書かれています。十字架の後のことです。ヨセフはイエスの弟子でしたが、ユダヤ人の指導者を恐れて、秘密にしていたと書かれています。そして、おそらく体を取るためにピラトから許可を得ることもなかったでしょう。だから、ピラトの許可を得て、彼は来て、体を取り降ろし、彼はニコデモと共にいたので... ニコデモを覚えていますか？彼のことを「夜のニック」と呼ぶ人もいます、とにかくそれは別の話で...すみません。なので、「以前、夜にイエスを訪れた男のニコデモは...」彼が「夜のニック」と呼ばれる理由です。

**「以前、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬と沈香を混ぜ合わせたものを、百リトラ（約33kg）ほど持ってやって来た。」 (ヨハネ19:39)**

**「彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従って、香料と一緒に亜麻布で巻いた。」 (ヨハネ19:40)**

そういうことです。黄金、乳香、没薬。では、これは私にとって何を意味するのでしょうか？

「牧師さん、私たちにユダヤ人の埋葬の習慣を説明してくれてありがとう。クリスマスに、本当に私の心が祝福されました。」 「乳香、没薬について説明していただき感謝です。なんと素晴らしい...！」

「私はこの先、乳香も没薬も違った見方をするでしょう...」 「乳香と没薬を目にすることがあるとしたら、でしょ？」 「金？ まあ、それは別の話ですね。」 「金に関するご説明ありがとうございます。」 「それは大いに理にかなっている。」 「ところで、これはヨセフとマリアを養うための神のやり方だったと教えて下さって、感謝します。」 「彼らは、経済的な必要を満たすために、その金を必要としていたと。」

「ありがとうございました。祝福になりました。本当にありがとうございました。」

「あなたは何が言いたいのか？」

たぶん、皆さんは尋ねています。「要点はあるんですか？」もちろん、ありますよ。そして、私は皆さんが尋ねてくれた事を、嬉しく思います。

金は私たちの王としてのイエスの誕生を語ります。乳香は私たちの祭司としてのイエスの生涯のことであり、そして没薬は、救い主としてのイエスの死を物語っています。すごい！もしかしたら、皆さんは、私たちが王の子どもであると聞いたことがあるかもしれません。それを信じていますか？ そのような人生を送っていますか？ それがどういう意味か知っていますか？「私は王の子どもです。」それは私に権利を与えます。それはもう良い表現ではありません。残念ですが、しかし、それは王国を継承する王の子どもとして、私に権利を与えます。イエスは私の王です。あの黄金は、彼が私の王であるということ。

私の祭司としての乳香はどうですか。イエスは私の大祭司です。彼は私の代わりに、私のために贖いをした人です。私には祭司が必要です。

そして、この最後の1つはどうですか？ イエスは私の救い主です。彼は私のために死なれたゆえに、私の救い主なのです。彼は自ら私の罪のすべてを引き受け、その十字架に行きました。彼は私の救い主です。彼は私の王であり、彼は私の祭司です。彼は私の救い主であり、彼は私のすべてです。

それで、何が問題なのでしょう？ 意地悪で言っているのではありません。しかし、あなたは王の子どもなのです！あなたには大祭司がいます。あなたには救い主がいて、あなたは救われたのです！何が問題なんですか？ 繰り返しますが、あなたが抱えている問題は何ですか？ あなたは自分が誰に属しているか分かっていますか？ もしあなたが私に尋ねるなら、私はこれを言うとき、非常に率直でなければなりません。しかし、クリスチャンとしての私たちにとって、最大の葛藤の一つは何かと私に尋ねるなら、私は自分の人生でこれが最大の葛藤の一つであることを知っています。それは、困難と苦難の只中で喜びを持つことです。クリスマスは、何人かの人たちにとっては、いなくなってしまう愛する人を思い出させるものです。クリスマスは、遠く離れている強情な娘や、放蕩息子を思い出させます。クリスマスは、家族内の関係や対立、困難と苦難を思い出させる期間です。だからここで、この博士たちは、喜んだとあります。それは彼らの内側の喜びを外に向かって表現したものです。彼らは喜んだのですが、ただの喜びではありません。そして、単に大きな喜びでなく、非常に大きな喜びです。私はそれが欲しい。皆さんは欲しいですか？

こう質問させてください。私は実際に今週初め、このことについて主に尋ねました。

私は主に尋ねました。私たちは皆、主と個人的な親密な関係を築いています。私は時々、私が今皆さんと話しているように彼と話します。そして、私はこう言いました。「主よ、私は今年、今までにない最高のクリスマスにしたい。」「私は祝福されたクリスマスをお過ごししたい。」「私は喜びを持ちたい。」「ええ、私には喜びが必要です...!」「私は、人生の中で喜びが必要です。なぜなら、主を喜ぶことは私の力だからです。」「そして、喜びがない時は、とても弱いと感じます。私はとても敗北した感じがします。」

「主よ、私は非常に大きな喜びを持ちたいです。」「私は喜びたい。」

ところで、私はこの講壇の後ろに立たなければなりません。毎週、そうすることが私の特権ですから。

私がここに立ち上がって、こう言うのを想像できますか？(うつむきながら、暗い声で...)「さて、非常に大きな喜びを持ちましょう...」もしくは、(暗い声で)「♪ 民みな、喜べ...」と歌っていたら...

言い換えれば、私はそれが本物であって欲しいのです。そうじゃないですか？決して、幸せ(happiness)を喜び(Joy)と同義語にしないで下さい。同じではありません。幸せ(happiness)という言葉は偶然(happenstance)から来ています。状況です。「もしあなたの人生で、たまたま物事がうまくいくなら、あなたは幸せになれる。」何年も前のあの歌を覚えていますか？「幸せになる。心配はいらない♪」私はその歌が嫌い。その理由

を話します。本当に嫌いなんです。その理由を話しましょう。なぜなら、まず第一に、彼は私に心配しない方法を教えていないからです。使徒パウロは、ピリピ4章6節から8節で教えています。心配しない方法を。

「君は心配しないでと言ってる。」 — 「分かった！心配しない！」

そんな簡単だったらいいのに！そして、

「幸せになりましょう?!」 — 「オッケイ！」（笑顔を作って）

「私は幸せ、幸せ、幸せです...」 「今は順調にいつている。だから私は幸せになれる。」しかし、もし物事がうまくいつているときだけ、幸せであるなら、じゃあ、あなたはきっと、長い間幸せになれないでしょう。そうですね？しかし、喜びは違います。喜びは、私の人生で起っている事柄に左右されません。どん底に落ちたとき、すべてが私に敵対する時、逆境が襲うとき、試練が訪れる時にも、私はそれでも喜びを持つことができます。そして、人生の試練は訪れます。特にこの終わりの時代には。それは悪化しています。「では、よい一日を！」ところで、終わりに近づくにつれて、さらに悪化していきます。しかし、もしイエスが私の王であり、私の祭司で私の救世主であるならば、彼はまた、私の人生のすべての答えでもあります。イエスが答えです。決まり文句のように聞こえたらすみません。そんな印象を与えるつもりはありません。そして、私は決して、この墮落した世界での人生の困難を否定することを望みません。しかし、イエスがその答えです。イエスは道であり、真理であり、いのちなのです。

彼は私の王です。彼は私の祭司です。彼は私の救い主です。彼は私のすべてです！彼は恐れに対する答えであり、彼は心配に対する答えです。彼は絶望、うつ病、失望、病気、病、その他のすべてに対する答えです。イエスが答えです。この季節に救い主の誕生を祝うのはこのためです。そうすることで、救い主の死も祝うからです。なぜでしょうか？なぜなら、イエスは死ぬために生まれたからです。私たちが生きるために生まれ変わることができるように。彼が死んだのは、私たちが生きるためです。彼は死ぬために生まれました。彼は誕生において、処女の子宮を通り抜けました。そして死において、彼は空の墓を通り抜けました。誕生において、彼の体は石の飼葉おけの中で、布で包まれていました。そして死において、彼の体は石の墓の中で、布で包まれていました。

ところで、長年にわたって 私たちと一緒にイスラエルに行った人たちは、飼葉おけがどんな物であるかを見ましたね。やはり、私は皆さんの降誕シーンを台無しにしたいくはないのですが... 私はある意味で、私たちがそれを衛生的にしすぎていると思います。ところで、私たちはこの正面に降誕シーンの置物を置いて、博士がそこにいます。礼拝の後、私は博士たちを取り除くつもりです。いいえ、しませんよ。私たちがそれを、きっと少しだけ... もしかしたら大いに衛生的にしていると思います。飼葉おけが何だか知っていますか？それは餌を入れる桶です。それは動物に餌を食べさせるために彫られた冷たい岩です。そして、あなたは動物のための餌の桶に世界の救い主を置くつもりですか？ — はい。イエスはあの石の飼葉おけの中に、赤ん坊として寝かされました。そして、彼は死んだとき、あの石の墓に救い主として寝かされました。それは、救い主の人生を両側からはさむようなものです。私はある解説者が言ったことが好きです。

「イエスは、入場お断りと示されたドアを歩いて私たちの世界に入り、行き止まりと示されたドアを歩いて去った。」

さて、ここで質問です。そして、それは私たちの一人一人のための質問です。私たちがこの世を出るとき、私たちは、永遠の命のために、彼が私たちの人生の扉から入ってくることを許すでしょうか？人生は短いのです。明日は決して保証されていません。悲観的に聞こえて欲しくありませんが。しかし、それは真実です。私たちの人生は霧にすぎません。これが、救い主の誕生が嬉しい知らせ、良い知らせであり、私たちが先ほど一緒に歌ったように、罪や偽りの元に置かれ渴望していた世界にとって、非常に大きな喜びである理由です。それは良い知らせです。この世界は私たちの家ではありません。最近、主が私に語って下さっていることの一つは、ここで起こることが困難であればあるほど、天に行き、イエスと一緒にいたいと思わされるということです。そして、私たちは預言アップデートの中で、このことについて話しましたが、私は、私がとても愛しているこの国で何が起っているのかを見えています。私が生後9ヶ月の時、両親が中東からアメリカに移住していな

かったら、この国に来ていなかったら... 私は、生きているかも分かりません。ましてや、救われていたかなど... 両親がイスラムの抑圧から逃れるためにこの国に来てくれたことにとっても感謝しています。そして、彼らはここに来ました。そして、私はアメリカに何が起きているかを見て、私の最初の反応は、それは非常に自然なことで、嘆くことでした。そして、皆さんがしているのは、失われたものを嘆き悲しんでいることです。

それは良いことです。なぜなら、神がこう仰っているからです。「わたしよりもこの国を愛しているのか？」  
「ここはあなたの家じゃない。 どうしてあなたはここで、 こんなにも居心地よく過ごしているのか？」 — ええ、でも主よ...！何が起きているのか見てください！

「分かっている。わたしはあなたにそれが起こると言った。 どうしてそんなに動揺しているのか？」

「落ち着きなさい。わたしはすぐに降りて行く。 落ち着きなさい。」 「わたしは降りて来て、あなたを上に関連して行くから。」 「なぜあなたは、この世の一時的な地に、根を深くはっているのか？」

「あなたはこの世にいるが、この世の者ではない。」 「わたしがあなたにそれが起こる前に言ったのは、それが起こった時に、あなたが信じるためだ。」 「わたしはあなたに、何が起こるか話したからだ。」

— 何と言ったんですか？何が起こるの？

「ああ、それはすべてここ(聖書)に書いてある。」 「ところで、だからこそわたしは世界に来たのだ。」 「覚えているか？」 「そもそもわたしが来たのはそのためだ。」 「わたしはベツレヘムで赤ん坊として来た。」 「しかし、わたしは再び戻って来る。 それはベツレヘムの赤ん坊としてではない。」 「すべてが膝をかかめ、すべての舌が、『王の王、主の主』と告白する者として来る。」

そして黙示録の火。彼は征服する王として来られます。これが、彼が来た理由なのです。私の言うことを聞いてください。 もう少しで終わります。聞いてください。これが良い知らせです。そうですね？イエスが来て、彼は十字架につけられました。彼は埋葬され、3日目によみがえりました。そして、彼はいつか再び戻ってきます。あまり居心地よくなりません。深く根を下ろしすぎはいけません。私はこの世界とこの世界の物事には、軽く触れるようにします。

「わたしはこの世界のためにあなたを造ったのではなく、永遠のためにあなたを造ったのだ。」

「そしてわたしは来て、この世界からあなたを連れて行くつもりだ。」 「わたしがいる所に、あなたも居らせるために。」 「なぜなら、わたしは父の家に行くから。あなたのための場所を備えるために。」

「もしそうでなかったら、わたしはあなたに言わなかっただろう。」 (ヨハネ14章)

「そして、わたしは行き、また戻ってくる。」

イエスが弟子たちに伝えようとしたとき、「いいかい、わたしは十字架にかかり、それから...」彼は全てを説明しようとしていました。そしてペテロは「絶対にそんなことはさせない！」と、それに対して戦い始めます。それで、「下がれ、サタン！」と。

ペテロは「え？私をサタンと?!」 「いいえ、あなたをサタンと呼んだのではない。」 「しかし、わたしはしなければならぬのだ。」 「わたしは行かなくてはならない。」

— 「いいえ！！行かないで下さい！」 「いや、行かなければならぬ。なぜなら、もしわたしが行けば、また戻ってくるから。」 「もし行かないなら、戻って来れない。わたしはまた戻ってくる。」

私がこの話をしたのは、最後にこれをお伝えするためです。

クリスマスとは、非常に大きな喜びをもって喜ぶことが出来るものだ。なぜでしょうか？なぜなら、これで終わりではないからです！彼は戻ってきます！世界よ喜べ！今ではありませんが。私たちは地上に平和があるようにと言います。今のことではありません。平和の王が来るまではありません。

だから、それを知っていれば、このクリスマスは、今までで最高のクリスマスになるはず。今あなたの人生で何が起きているかに関係なく。あなたが経験している試練、あなたが経験している苦難、あなたが苦しんでいる痛みに関わらず。あなたは喜びを持つことができます。あなたは、非常に大きな喜びを持つことができます。そして、あなたは喜ぶことができます。



ところで最後に一つ。 さっきもこう言ったことは分かってますが。 最後の最後の話です。 喜ばば喜ぶほど、喜びは増します。 なぜなら、喜ぶ(rejoice)中に、 喜び(joy)があるからです。 Joyce (ジョイス) ー一喜び (ジョイ) ? 喜ばば喜ぶ(rejoice)ほど、喜び(joy)は増します。

救いのABCで終わりたいと思います。それは、子どもにも分かる救いの説明だからです。イエスは、あなたが天の国に入りたなら、 小さな子どものようにならなければならないと言いました。私がこれを伝える時、 誰の知性をも侮辱するつもりはありません。私たちはここ数年、 毎回預言アップデートの終わりに、これに取り組んで来ました。そして、私はこれをこう表現できるならば、それは非常にシンプルなテンプレートです。

A=Admit/認める・Acknowledge/認識する あなたは罪を犯し、この救い主を必要としていることを認める、または認識する。これが悔い改めるという意味です。それは思考の変化で、そこで、神はあなたの心を変えることができます。それはあなたの罪から立ち返り、罪を認め、 罪の赦しのために救い主の方へ向きを変えます。これが悔い改めです。

**ローマ3:10**にはこう書いてあります。

**「義人はいない。ひとりもない。」**

**ローマ3:23**はさらに悪いです。

**「すべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」**

ところで、イエスが来られたのはそのためです。私たちには救い主が必要だったのです。私たちのために救い主が生まれる。**ローマ6:23**は、 本当に私たちの罪のすべてのための判決です。そして、その判決は死刑宣告です。

**「罪からくる報酬は死です。」**

しかし、ここで良い知らせです。

**「しかし、神の下さる賜物は、私たちの主イエス・キリストにある永遠のいのちです。」**

火曜日か水曜日か... 水曜日がクリスマスですか？ 私は何曜日かも分かっていません...12月ですよ？ はい、それは知ってました。水曜日に、 私たちの多くはクリスマスイブにそれを行います、 私たちに与えられた贈り物のすべてを開きます。それらの贈り物。私たちはそれらのためにお金は払いません。

お金を払うなら、それは贈り物ではないですよ。しかし、誰かが贈り物のために支払った。イエスはそれを支払いました。贈り物の中の贈り物。彼は永遠のいのちの賜物を与えるために全額を支払いました。そして、イエスは自分の命をもって支払いました。それは、彼にすべてを失わせました。

B=Believe/信じる イエス・キリストが主であり、神が死者からイエスをよみがえらせた心の中で信じる。これは**ローマ10:9-10**です。

**「あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」**

それはかなり明確ですね。「あなたは救われる。」

あなたは「救われるかもしれない」ではなく、あなたは「救われるはずだ」でもない。あなたは「救われる」のです。

そして、最後にC=Call/呼び求める 「主の御名を呼び求める」もしくは**ローマ10:9-10**にまたこう書いてあります。

**「もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」**

そして、ここに理由があります。

**「人は心に信じて義と認められ、口で告白して(Confess)救われるのです。」 (ローマ10:10)**

そして最後に**ローマ10:13**。これで取引成立です。

**「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」 (ローマ10:13)**

もしあなたが今日ここにいて、私は何の仮定もしませんが、もしあなたが主の名を呼んだことがないなら、あなたの心で信じて口で告白し、あなたの罪を認め、イエスの必要性を認めたことがないなら、私は今日、あなたに懇願します。今日は救いの日です。もしかしたら、あなたはオンラインで観ているかも知れません。私はあなたに懇願し、こう言いたいのです。私がこう言うのに 皆さんが飽き飽きしないことを願います。しかし、私は言います。それはちょっと意地悪でしたね。私が言うのに皆さんが飽き飽きしようとも、とにかく言うつもりです。

これが、私たちが一緒に祝う最後のクリスマスになるかも知れません。皆さんそれに気づいていますか？ 本当です。

今回は、私の娘とワーシップチームに上がってきてもらいます。彼らは歌で礼拝を閉じます。そして、後ろに男性たち、これは私たちのオンライン教会のためですが、彼らに画面に映して欲しいのです。男性方、あれを持ってますか？これは、彼らが弾く曲の著作権情報です。私たちがこうしなければいけないのは、なんだか悲しいですね。別に悪いことではないのですが、著作権使用料を支払わなければなりません。私たちは、私たちが使う曲のためにそれらの著作権使用料を支払います。私たちは、CCLIを通してそれを行います。それは、私たちが毎年支払うもので、すべての作曲者に送られます。私たちが歌う歌のために。だから私は彼らに私たちのYouTubeチャンネルのためにそれをやってもらっています。なぜなら、収益化し、ビデオでお金を稼ごうとする人がいるからです。だから、私たちがアップロードして、皆さんがこの後にこの動画を見ている時に、広告がついていたら、それは私たちがしたものではありません。私たちのせいではありません。この曲の著作権を主張する人がいるのです。私はその問題を片付けておきたかったんです。それは私にとっては問題ですから。私たちはそれについて話しました。私はその話をしたくはありません。しかし、ただ私が皆さんに言いたいのは、これは私たちがすでに著作権の支払いをした曲なのです。

なので、動画に広告をつけないで下さい！！ええと... 本当に怒っているのです！そこには貪欲な人々がいるのです。私はこんなに爆発するつもりはなかったのですが...しかし...！！イエスの御名によって。では、今消しても大丈夫ですよ。私がその席に着くまで始めちゃだめだぞ。ビデオを撮るんだから。

---

メッセージby JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7